

元国土交通省熊本河川
国道事務所長



森田 康夫

アジサイの花が美しく映える季節になりました。同時に、このシーズンは、梅雨前線による集中豪雨への対応が求められます。熊本河川国道事務所が管理する白川・緑川では、出水時に備えたさまざまな対策や準備が行われています。

6年前の熊本地震では、出水期（5月）に入る直前に、河川堤防も大きな被害を受けました。国管理区間の堤防等の変状は171カ所ありましたが、応急対策だけでなく、堤体が大きく損傷した緑川水系の11カ所についても、24時間体制で大規模な緊急復旧工事を実施。おおむね2週間でこれらを完成させることができました。

洪水から地域を守る



復旧工事に携わった建設企業、最前線で現場の指揮に当たった出張所職員、これを全面的にバックアップした事務所スタッフら、「大雨が降る前に、一日も早く」との関係者の強い思いが不可能を可能にしました。白川と緑川はいずれも、過去に何度も大きな洪水を経験し、そのたびに流域は被害に見舞われてきました。中でも1953（昭和28）年の6・26水害の被害は甚大で、当時の記憶は約70年たった現在も年配の人々によって語り継がれています。

洪水から地域を守るため、国や県などの河川管理者は、堤防整備や河道掘削などのハード対策とともに、気象情報の確認や水防演習を行っています。事務所のホームページでは、リーダー雨量や白川・緑川流域の時間・累加雨量、河川水位、水位危険度レベルを図示化して提供しています。雨量や河川の水位が気になった場合は、すぐにアクセスしてください。

熊本豪雨